

学期 / Semester	2019年度 / Academic Year 1クォーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2019/04/08 ~ 2019/06/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20190587049901	科目番号 / Course code	05870499
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15321_005		
授業科目名 / Course title	文化と対人関係 (身体関係論) / Embodied Relating		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	北村 史 / Kitamura Fumito		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11, 学生プラザ1F 多目的室1		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kitamura@nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパスA&TLab爽創館 オープンラボ1		
担当教員TEL/Tel	095-819-2455		
担当教員オフィスアワー/Office hours	平日の (16:00-17:00)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	我々の日常的なコミュニケーション活動において、言語的な意味内容は重要です。しかしながら、我々が他者のことを「わかる」とき、利用しているのは単に言語的な情報だけでなく、相手の表情やジェスチャーや姿勢などからも豊かな意味をもってメッセージが伝わっていると考えられます。そういった身体の機能の重要性の一方で、我々は身体の使い方を学ぶことは少なく、無意識のうちに慣れてくせのようになった身体の使い方に気づくことすらあまりありません。本授業では、実際に身体を動かすワークを通じて、自分自身の身体感覚に意識を向け、コミュニケーションにおける身体の役割に気づき、自分自身のコミュニケーションスタイルを意識して、効果的なコミュニケーションをできるようになることを目指します。また、「わかる」ということにおける身体の機能に注目したワークショップを履修者全員で企画実施し、実践的に身体を活用した学びに取り組みます。		
授業到達目標/Course goals	a. 自分のコミュニケーションスタイルに気づく (2, 5) b. 自分の身体的体験を言葉にできる (5, 10) c. 他者との関わりにおいて、自分らしい自己表現を効果的に行うことができる (8, 9, 10) d. 非言語行動、身体化された知識、感覚の共有など、授業で紹介された考え方について整理して説明できる (C) ()内の数字は全学モジュール目標の番号と対応 (『全学モジュールガイドブック』を参照)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	(身体体験ログ5点×7回) + (予習復習課題6点×4回) + (プレゼンテーション10点) + (体験学習やグループワークへの取り組み11点) + (レポート課題20点) = 100点満点のうち、60点以上を合格とします。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	毎回の授業後に予習復習のための課題を知らせます。課題には以下のものが含まれます。 体感ログの作成 資料を閲覧視聴した後の掲示板ディスカッション グループでの準備活動		
キーワード / Keywords	からだ言葉、ボディ・スキーマ、身体化、非言語行動、ワークショップ		

教科書・教材・参考書/Materials	購入指定する教科書はありません。以下の文献を主な参考書とします。 生田久美子 「わざ言語ー感覚の共有を通しての『学び』へ」 慶應義塾大学出版会 2011 D. マクニール 「心理言語学『ことばと心』への新しいアプローチ」 サイエンス社 1990 鴻上尚史 「発声と身体のレッスン」 ちくま文庫 2012 佐々木正人 「からだ：認識の原点」 東京大学出版会 2008 鯨岡峻 「ひとがひとをわかるということ」 ミネルヴァ書房 2006 得丸さと子 「TAEによる文章表現ワークブック」2008 荻宿俊文、佐伯胖、高木光太郎 「まなびほぐしのデザイン」 東京大学出版会 2012	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・一つひとつの体験を大事に、集中して授業に参加すること ・うまくできなくても、やってみようとする ・自らの知性を発揮することを楽しんで、建設的な学び合いができること ・授業内外でテーマについて考え、学ぶ（予習、復習、課題、グループワーク）ために時間をつかうこと（週平均3時間程度） 	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp	
備考 (URL) /Remarks (URL)		
学生へのメッセージ/Message for students	いろいろな姿勢や動きをする体験学習が多いので、全回の授業に、からだを動かしても気にならない服装で参加してください。からだを動かさづらい服装やスカート等は避けてください。また、本授業では授業の成果を検討して授業内容の改善につなげるために、調査に協力してもらうことがありますが、協力するかどうかはその都度各自で選択できます。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	N	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 / Lesson method
第1回	オリエンテーション アイスブレイク からだ言葉	A B
第2回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(1) TAEによる自己表現の導入	A C
第3回	ボディ・マップ ボディ・スキーマ ペリパーソナルスペース	A
第4回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(2)	A C
第5回	感覚の共有	A
第6回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(1)	A C
第7回	共感とまなび	A
第8回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(2)	A C
第9回	ワークショップの構想(1)(グループワーク)	B D
第10回	ワークショップの構想(2)(グループワーク)	B D
第11回	ワークショップ案のコンペ(プレゼンテーション)	B C
第12回	ワークショップの準備	B D
第13回	ワークショップ実施(1)	A B
第14回	ワークショップ実施(2) ワークショップのふりかえり	A B
第15回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(3) 授業のまとめ	A B

学期 / Semester	2019年度 / Academic Year 1クォーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Course duration	2019/04/08 ~ 2019/06/07		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20190587049902	科目番号 / Course code	05870499
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15321_005		
授業科目名 / Course title	文化と対人関係 (身体関係論) / Embodied Relating		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	北村 史 / Kitamura Fumito		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟24 / RoomA-24, 学生プラザ2F		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kitamura@nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパスA&TLab爽創館 オープンラボ1		
担当教員TEL/Tel	095-819-2455		
担当教員オフィスアワー/Office hours	平日の (16:00-17:00)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	我々の日常的なコミュニケーション活動において、言語的な意味内容は重要です。しかしながら、我々が他者のことを「わかる」とき、利用しているのは単に言語的な情報だけでなく、相手の表情やジェスチャーや姿勢などからも豊かな意味をもってメッセージが伝わっていると考えられます。そういった身体の機能の重要性の一方で、我々は身体の使い方を学ぶことは少なく、無意識のうちに慣れてくせのようになった身体の使い方に気づくことすらあまりありません。本授業では、実際に身体を動かすワークを通じて、自分自身の身体感覚を意識を向け、コミュニケーションにおける身体の役割に気づき、自分自身のコミュニケーションスタイルを意識して、効果的なコミュニケーションをできるようになることを目指します。また、「わかる」ということにおける身体の機能に注目したワークショップを履修者全員で企画実施し、実践的に身体を活用した学びに取り組みます。		
授業到達目標/Course goals	a. 自分のコミュニケーションスタイルに気づく (2, 5) b. 自分の身体的体験を言葉にできる (5, 10) c. 他者との関わりにおいて、自分らしい自己表現を効果的に行うことができる (8, 9, 10) d. 非言語行動、身体化された知識、感覚の共有など、授業で紹介された考え方について整理して説明できる (C) ()内の数字は全学モジュール目標の番号と対応 (『全学モジュールガイドブック』を参照)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	(身体体験ログ5点×7回) + (予習復習課題6点×4回) + (プレゼンテーション10点) + (体験学習やグループワークへの取り組み11点) + (レポート課題20点) = 100点満点のうち、60点以上を合格とします。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	毎回の授業後に予習復習のための課題を知らせます。課題には以下のものが含まれます。 体感ログの作成 資料を閲覧視聴した後の掲示板ディスカッション グループでの準備活動		
キーワード / Keywords	からだ言葉、ボディ・スキーマ、身体化、非言語行動、ワークショップ		

教科書・教材・参考書/Materials	購入指定する教科書はありません。以下の文献を主な参考書とします。 生田久美子 「わざ言語ー感覚の共有を通しての『学び』へ」 慶應義塾大学出版会 2011 D. マクニール 「心理言語学『ことばと心』への新しいアプローチ」 サイエンス社 1990 鴻上尚史 「発声と身体のレッスン」 ちくま文庫 2012 佐々木正人 「からだ：認識の原点」 東京大学出版会 2008 鯨岡峻 「ひとがひとをわかるということ」 ミネルヴァ書房 2006 得丸さと子 「TAEによる文章表現ワークブック」2008 荻宿俊文、佐伯胖、高木光太郎 「まなびほぐしのデザイン」 東京大学出版会 2012	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・一つひとつの体験を大事に、集中して授業に参加すること ・うまくできなくても、やってみようとする ・自らの知性を発揮することを楽しんで、建設的な学び合いができること ・授業内外でテーマについて考え、学ぶ（予習、復習、課題、グループワーク）ために時間をつかうこと（週平均3時間程度） 	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp	
備考 (URL) /Remarks (URL)		
学生へのメッセージ/Message for students	いろいろな姿勢や動きをする体験学習が多いので、全回の授業に、からだを動かしても気にならない服装で参加してください。からだを動かさづらい服装やスカート等は避けてください。また、本授業では授業の成果を検討して授業内容の改善につなげるために、調査に協力してもらうことがありますが、協力するかどうかはその都度各自で選択できます。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	N	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 / Lesson method
第1回	オリエンテーション アイスブレイク からだ言葉	A B
第2回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(1) TAEによる自己表現の導入	A C
第3回	ボディ・マップ ボディ・スキーマ ペリパーソナルスペース	A
第4回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(2)	A C
第5回	感覚の共有	A
第6回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(1)	A C
第7回	共感とまなび	A
第8回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(2)	A C
第9回	ワークショップの構想(1)(グループワーク)	B D
第10回	ワークショップの構想(2)(グループワーク)	B D
第11回	ワークショップ案のコンペ(プレゼンテーション)	B C
第12回	ワークショップの準備	B D
第13回	ワークショップ実施(1)	A B
第14回	ワークショップ実施(2) ワークショップのふりかえり	A B
第15回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(3) 授業のまとめ	A B

学期 / Semester	2019年度 / Academic Year 4ク ォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2019/11/27 ~ 2020/01/30		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20190587061501	科目番号 / Course code	05870615
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15581_005		
授業科目名 / Course title	文化と対人関係 (地域創生と観光) / Regional Revitalization and Tourism		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	岡村 克彦 / Okamura Katsuhiko, 北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	岡村 克彦 / Okamura Katsuhiko		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	岡村 克彦 / Okamura Katsuhiko,		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟14 / RoomA-14		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)			
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	k.okamura ana-ri.co.jp (メールを送信する際は を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室 / Office	非常勤講師控室		
担当教員TEL / Tel	Tel: 050-3756-6223		
担当教員オフィスアワー / Office hours	第4クォーターの木曜の講義実施日は、講義終了後の16時10分?17時10分を非常勤講師控室でのオフィスアワーとさせていただきます。それ以外の時間での質問はk.okamura ana-ri.co.jpへ電子メールでお願いします。(メールを送信する際は を@に置き換えて送信してください)		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	人口減少と高齢化が進行する地域の社会、経済には多くの課題が存在します。長年地域活性化に取り組んできたANA総合研究所の取組事例と経験者談、グループワークを交えて、地域の課題及び観光を中心とした地域活性化を学習していきます。		
授業到達目標 / Course goals	地域の社会、経済に関する諸課題や地域活性化が重要なテーマであることを理解すると共に、地域活性化の大切なツールである観光の概要や課題を理解する。また長崎の観光を中心とした地域活性化策について、自らの視点で問題意識を持った案を持つ。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ゲストスピーカーによる講話 F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	平常点20点 (出席状況、受講態度、毎回のコメントシート記入状況)、期中に出題する2回の個人レポート評価点40点、最終回のグループワーク発表評価点40点の計100点満点での評価のうち、60点満点を合格とする。但し出席回数が2/3に満たない場合は失格とします。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	授業内容の復習を行うと共に、期中の2回の個人レポートの作成を通じて講義への認識を深めて下さい。		
キーワード / Keywords	地域の課題、地域の活性化、ニューツーリズム、着地型観光、長崎の観光資源		
教科書・教材・参考書 / Materials	教科書はありません。教材は講義時に配布し、参考書は講義の中で必要に応じてご連絡します。		
受講要件 (履修条件) / Prerequisites	地域問題や地域活性化、観光に関する話題に関心を持っておいください。		
アクセシビリティ / Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 。アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			

学生へのメッセージ/Message for students	今後の日本にとって地域政策は非常に重要なテーマであり、観光は地域活性化の大切なツールの1つです。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づ く教育内容 (実務経験のある教員による授業科 目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
11月28日 1回目	オリエンテーション (授業の狙いと概要の説明、グループワークの課題の説明など)
11月28日 2回目	社会の変化と地域について (経済発展と産業構造の変化、都市化の流れ、社会構造と人々の意識の 変化)
12月5日 3回目	これまでの主な国土計画と論点、地域課題など (これまでの主な国土計画と論点、人口減少、高齢 化、社会資本老朽化、地域行政などにおける地域課題について)
12月5日 4回目	理想とすべき地域像と地域政策の方向性 (どのような地域を目指すべきか、各課題に対する民間視 点での地域政策の方向性、観光振興政策の必要性)
12月12日 5回目	観光の概要?① (観光の定義と意義、世界と日本における観光の概要や規模、経済効果について)
12月12日 6回目	観光の概要?A (観光資源の保護、国立公園、文化財、世界遺産、日本遺産の概要とニューツーリス ムについて)
12月19日 7回目	観光の概要?B (日本の観光の変化と政策の変化、DMOについて)
12月19日 8回目	観光関連産業(旅行業・宿泊業) (旅行業と宿泊業の制度、業界の概要、キャリア、課題など)
1月9日 9回目	観光関連産業(宿泊業・航空) (宿泊業の続き、航空の概要と課題、航空会社でのキャリアなど)
1月9日 10回目	地域活性化事例1 (ANA総研 価値創り事業部) (ANA総研の大学との産学連携、地域活性化の事例紹 介)
1月16日 11回目	地域活性化事例2 (ANA総研 「元気な日本」創生事業部) (ANA総研の自治体との地域活性化の事例 紹介、これまでの地域駐在員の活動事例紹介)
1月16日 12回目	地域活性化事例3 (ANA総研 「元気な日本」創生事業部) (ANA総研の自治体との地域活性化の事例 紹介、これまでの地域駐在員の活動事例紹介)
1月23日 13回目	グループワーク (長崎の観光関係の課題に対して対応策をグループで考える)
1月23日 14回目	グループワーク (長崎の観光関係の課題に対して対応策をグループで考える)
1月30日 15回目	グループワーク発表会と講義のまとめ (グループワークの発表会を実施、審査を行い優秀案を表彰 、講義のまとめ)

学期 / Semester	2019年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2019/09/30 ~ 2019/11/21		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20190587061701	科目番号 / Course code	05870617
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15591_005		
授業科目名 / Course title	文化と対人関係 (他者理解とバイアス) / Unconscious Bias Toward the Others		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	中島 ゆり / Nakajima Yuri, 北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	中島 ゆり / Nakajima Yuri		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	中島 ゆり / Nakajima Yuri		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟22 / RoomA-22		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nakajimayuri_nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	教育学部新館2階254?2		
担当教員TEL/Tel	095-819-2908 (内線2908)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業後の木曜日16:00-17:00 それ以外はメールにてアポイントをとること。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	人は他者を判断するとき、「無意識のバイアス」に依拠しがちである。対人関係を築く上で自分自身がどのようなバイアスを持っているか、それによってどのような問題が生じる可能性があるか、なぜそのようなバイアスを持ってしまうのかについて学ぶ。		
授業到達目標/Course goals	1. 「無意識のバイアス」が何によって生じるのか、どのような問題が生じる可能性があるのか、について説明することができる。 2. 自らのバイアスと、それによって生じる可能性のある問題を理解し、それをできるだけなくすように努力する態度を身につける。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	小課題 30% 最終レポート 70%		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	毎回、小課題を提出してもらいます。また、インタビューデータの文字起こしと分析を授業外での必要があります。		
キーワード/Keywords	無意識のバイアス、社会階層・人種・ジェンダー、社会学		
教科書・教材・参考書/Materials	資料はこちらで準備しますので、購入する教科書等はありません。 参考文献については授業中に提示します。		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites	人に対するインタビューを実施します。また、グループで活動します。		
アクセシビリティ /Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 。アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks (URL)			

学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づ く教育内容 (実務経験のある教員による授業科 目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
43741	自分のバイアスを知る
43748	さまざまなバイアス (1)
43748	さまざまなバイアス (2)
43755	他者を知る方法 (1)
43755	他者を知る方法 (2)
43762	正しく知る (1)
43762	正しく知る (2)
43769	話を聞く (1)
43769	話を聞く (2)
43776	インタビューデータの分析 (1)
43776	インタビューデータの分析 (2)
43783	グループ内での分析 (1)
43783	グループ内での分析 (2)
43790	全体発表 (1)
43790	全体発表 (2)